

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	澤田 匡人	所属	宇都宮大学教育学部 准教授
研究集会等名称	感情と社会的認知研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 9名 (うち認定心理士 1名) 非会員 3名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>本年度は対面での研究会または読書会を公開にて開催する計画であったが、研究会メンバーのスケジュール調整が難航したため実施できず、代表者を中心とした一部メンバーで、Web 電話や電子メールを使用したミーティングを繰り返し行い、知識の共有および今後の研究計画について検討を行った。</p> <p>本年度の助成金は、研究会の趣旨に沿う書籍の購入に充てた。具体的には、「Schadenfreude: Understanding Pleasure at the Misfortune of Others」, 「Handbook of Cognition and Emotion」, 「Blindspot: Hidden Biases of Good People」の3冊を購入し、シャーデンフロイデという感情の理解を深め、認知および情動(感情)の諸理論や測定法を把握し、潜在的測度を用いた測定手法の理解や、「潜在」の意味するものは何かという点について検討を深めることができた(上記書籍は Web 上のミーティングを行う際の資料作成の際にも使用された)。</p> <p>昨年度の課題としていた3点(1: 潜在的測度を用いた諸研究や、感情(妬みに限定しない)研究の把握、知識の共有。2: シャーデンフロイデや妬み感情といった、社会的望ましさによる回答歪曲を受けやすい変数を、潜在的測定法を用いて測定する方法の開発。3: 公開する場を設けること(日本心理学会におけるシンポジウム開催)のうち、1は達成されたものの、2および3は実施できなかったため、この2点は来年度以降の活動としたい。</p> <p>上記を踏まえて、来年度以降の課題は下記の3点に集約される。</p> <p>1) (継続) シャーデンフロイデ・妬み感情などの社会的望ましさによる回答歪曲が生じやすい変数を、潜在的測定法によって測定する方法の開発および信頼性・妥当性の検討。</p> <p>2) (新規) 上記の研究で得られた知見や、本研究会のテーマとしている各種感情について、一般の人にも理解が容易になるよう工夫して公開する(現時点では日本心理学会の「心理学ミュージアム」への投稿を検討している)。</p> <p>3) (継続) アカデミックな場において成果を公開する場を設けること(公開での研究会または研究成果発表会、もしくは読書会を検討している)。</p>		

2015年 3月 25日

日本心理学会研究会

2014年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会感情と社会的認知研究会

研究会番号 研14024

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2014年10月16日	書籍代 (Schadenfreude : Understanding Pleasure at the Misfortune of Others)	¥12,819
2015年3月17日	書籍代 (Handbook of Cognition and Emotion)	¥16,069
2015年3月17日	書籍代 (Blindspot: Hidden Biases of Good People)	¥3,297

支出合計 ¥32,185

打切支出とし、2,185円分は研究会メンバーが負担
上記書籍はWeb上のミーティング時の資料作成にも使用された